

## RETAILER ACADEMY NEWS

May 2019 | Bentley Motors Japan

コンチネンタルGTコンバーチブルの  
実力をメディアはどう評価した？

第3世代のコンチネンタルGTコンバーチブルを日本で正式に発表したのが1月末。それ以降、コンチネンタルGTコンバーチブルを取り上げる自動車メディアが増えてきました。今回は、各メディアがこのクルマにどんな評価を与えているのか、一部をご紹介します。



CAR GRAPHIC

2019年5月号

## 『稀代の二枚目スタア』

カーグラフィックは南スペインでの試乗インプレッションを掲載。レッド系のメタリックカラー「クリケットボール」と、「キャメル×ペルーガ」のレザーおよび美しい木目のウッドパネル「コア」とのコントラストが「洒落たコントラストをなしていた」と表現しています。ウインドディフレクターやネックウォーマーにより、ルーフオープン時でも「外から見て想像する以上に我慢知らず」と、その快適性を高く評価しています。

走行性能においては、高速道路では「グランドツアラーの見本」とし、ワインディングロードでは「重量級グランドツアラーとは思えないほど自然、かつバランスのいい旋回姿勢を取ることに感心させられた」と絶賛。第3世代のコンチネンタルGTから採用された8速DCTについても、100km/h時の6～8速でのエンジン回転数を記載し、可変シリンダーシステム（気筒休止機構）と合わせて「実用燃費が以前よりだいぶ改善されているように予想される」と評価しています。



GENROQ

2019年5月号

## 『最高峰のラグジュアリー』

GENROQは記事の冒頭で、エクステリアのスタイリングやインテリアの変化は、「第3世代の進化の本質ではない」と明記。本当の価値は「パフォーマンスの発露にこそあった」としています。

パフォーマンスについては、「フロントの重量を感じない走り」や「クーペと同じくスポーツカーのように操れる」と評価。W12ツインターボエンジンのパワーとトルクに加え、コントロール性と効きの両面で高い性能を発揮するブレーキが、「望めばスポーツカーのように走ってくれる」と表現しています。

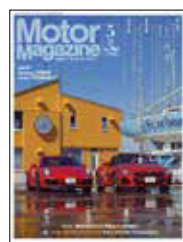


CAR AND DRIVER

2019年5月号

## 『華麗にして豪快。最高速度333km/h』

カー・アンド・ドライバーの「今月の試乗記」にコンチネンタルGTコンバーチブルが登場。ドライブモードは「B」で、クーペの運転しやすさが健在であることや、「ややフロントヘビーの車体をまるでフロントミッドシップカーのように軽々と操れる」と、ベントレーが追求するエフォートレスなドライビングを伝えています。



MOTOR MAGAZINE

2019年5月号

## 『開けても閉めても最高に優雅』

モーターマガジンは海外試乗記でコンチネンタルGTコンバーチブルを取り上げました。プラットフォームや内外装の解説に続き、駆動方式については中見出しで「4WDながら性格はFR的」と表現。ESP活用のブレーキベクタリングシステムを用いて旋回性を高めている点や、電動アンチロールバーの性能などについても説明しています。

また、ドライブモードについても言及。「負荷に応じてセットアップをリニアに変化させる『B』に入れておけば、不満を抱くことはまずない」とし、「難しいことを考えず飛ばすも流すも曲がるもアクセルペダルひとつ。その自在さこそ、まさにコンチネンタルに相応しい」との文で試乗記を結んでいます。



LE VOLANT

2019年5月号

## 『風と戯れるか空気を切り裂くか』

試乗記を掲載したル・ボランは、「幌を上げておけば、完璧な耐候性や遮音性のもと保護される。快適さにおいてクーペとの差は相変わらず無に等しい」と、クーペとコンバーチブルの間に快適性で差がないことを強調しています。本文だけでなく、

インテリアの写真キャプションでも「シート内蔵式のネックウォーマーや、シート/ステアリング/アームレストヒーターなど、コンバーチブルならではの快適装備にも抜かりはない」と、高い快適性について詳しく述べています。



LEON

2019年5月号

『モテるオヤジのドライブは  
“利休にたずねよ”』

パフォーマンスやスタイリングなどとは異なる視点でコンチネンタルGTコンバーチブルの魅力を表現しているのが、大人の男性をターゲットとするLEONです。おもてなし精神の集大成といわれる千利休の教え「利休七則」にかけ、「茶室」を「車室」に置き換え、居心地の良い車内のおもてなしができるクルマこそ、コンチネンタルGTコンバーチブルであるとしています。静粛性や各種ヒーター、ネックウォーマーなどの快適装備により、「これなら一年中、屋根を開けて季節風情を楽しむこともできそうです」と評価しています。



## フェラーリV8モデルの集大成

## Ferrari F8 Tributo

フェラーリ F8 トリブートは、2019年3月のジュネーブ・モーターショーで世界初公開された、最新の2シーター・ベルリネッタ。V8エンジンをミッドシップに搭載する同社のスポーツカーシリーズは、1970年代から現在まで、同社の主力モデルであり続けています。史上最強のV8エンジンに対するオマージュが込められたそのモデル名からは、ミッドシップV8フェラーリの集大成としての存在が見え隠れします。



## ミッドシップV8フェラーリの歴史上、異例となるニューモデル

フェラーリのミッドシップV8ベルリネッタは、これまで2世代ごとに全面刷新を行い、その間に大幅アップデートしたニューモデルを投入するサイクルを繰り返してきました。例えば308シリーズは328シリーズに発展したように、348シリーズはF355に、360 モデナはF430に、そして458 イタリアは488シリーズに発展というサイクルになります。

そのため、488シリーズの後継モデルは全面刷新のタイミングにあたり、新開発のプラットフォームを採用した次世代モデルが登場すると思われました。しかし、今回発表されたF8 トリブートは、実質的には488シリーズの改良版であり、従来の流れにはない異例のニューモデルとなります。この理由として、フェラーリは現在のV8ベルリネッタとは別に、V6ハイブリッドを搭載するニューモデルを用意しているためといわれています。そのため究極的な進化を遂げたフェラーリV8エンジンに価値を見出す一部のユーザーにとって、F8 トリブートは唯一無二の存在になる可能性があります。

## エンジンは50 psアップの720 psに



F8 トリブートに搭載されるエンジンは、2016年～2018年に3年連続で「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー」を受賞した3.9L V8ツインターボエンジンの改良版。ターボエンジンでありながら、その宿命となるターボラグを排除することで、自然吸気エンジンのようなレスポンスを実現しているのが特徴です。最高出力は従来比50 psアップとなる720 psに、最大トルクは10Nmアップの

770Nmに引き上げられています。この数値はフェラーリV8スペシャル・シリーズの488 ピスタと同じで、トランスミッションは引き続き7速デュアルクラッチ式が採用されます。

## より進化したエアロダイナミクス



よりシャープな印象を与えるエクステリアには、488 ピスタと同様に、サーキットで培われたエアロダイナミクスのノウハウが惜みなく投入されています。具体的な改良点は、フロントのSダクト、後傾マウントされたフロントラジエーター、従来のボディ側面後部からリアスポイラー両側に移されたダイナミックエンジン・エアインテーク、そしてリアのプロウンスポイラーなどによるもの。ボディ全体の空気抵抗係数では、Sダクトで15%、リアスポイラーで25%、フロントアンダーボディで15%、ボルテックスジェネレーターで25%、リアディフューザーで20%の向上を実現しています。

## 往年の名車のモチーフを取り入れたエクステリア



フェラーリ・スタイリングセンターがデザインしたエクステリアは、優れたパフォーマンスと卓越したエアロダイナミクスを兼ね備えたもの。フロント周りでは、488 ピスタと同様にF1由来のSダクトを採用することで、ダイナミックなスタイリングとダウンフォースの増大を両立させています。エンジンルームを見ることが出来るリアスクリーンには、軽量素材のレキサン樹脂を採用。中央部の3本のルーバーは、往年のフェラーリ F40のディテールを彷彿とさせるもの、もちろんデザインだけでなく、エンジンルーム内の熱気排出効果をもたらします。リア周りでは、テールライトをツインライトクラスターに変更。さらに左右テールライト間のパネルをボディ同色とすることで、初代V8ベルリネッタの308 GTBのようなイメージをもたらしています。

## ドライバー重視のcockpitデザイン



インテリアは、ドライバー重視のコンセプトを踏襲しながら、ダッシュボード、ドアパネル、トランスミッショントンネルなどのデザインを再設計。さらに新世代のステアリングホイール、ラウンド型エアベント、そしてオプションの助手席タッチスクリーンディスプレイの採用などにより、スタイリングをアップデートしています。

## さらなる進化を遂げたビークル・ダイナミクス



クラストップレベルのパフォーマンスとコントロール性能を実現するため、エンジンの出力強化と車体の軽量化、空力の改善に加え、最新世代の6.1に進化したSSC（サイドスリップ・アングル・コントロール・システム）を搭載しています。今回は新たに、ブレーキ圧を調整するラテラル・ダイナミクス・コントロール・システムのFDE+（フェラーリ・ダイナミック・エンハンサー）を「RACE」ポジションでも作動できるように設計。これにより、多くのドライバーが限界域でのパフォーマンスをより容易に引き出せるようになり、自信を持って車両のコントロールができるよう改良されています。

## フェラーリV8史上最強の動力性能

フェラーリ F8 トリブートは、リッターあたり185psに達する驚異的な高性能エンジンと、488 GTBから40kgの軽量化を果たした車体、そして空力とビークルダイナミクスに磨きをかけた車体設計により、動力性能も際立っています。0-100km/h加速は488 GTBから0.1秒速い2.9秒で、最高速度は同じく10km/h速い340km/hと発表。スペシャル・シリーズを除く同社のモデルとしては、歴代でもっともパワフルなV8スポーツカーとなります。フェラーリ F8 トリブートは、名実ともにフェラーリV8モデルへのオマージュ・モデルとなる存在です。



## COMPETITOR INFORMATION



| ニューモデル    | ボルボ V60 クロスカントリー  |
|-----------|---|
| 発表・発売日    | 2019年4月17日 発売   |
| 概要        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ V60 をベースにオフロード性能を高めたクロスオーバーモデル</li><li>・ 最低地上高はV60より65mm高い210mmを実現。全高は1,505mm</li><li>・ 合計16種類以上の先進安全・運転支援技術を標準装備</li></ul> |
| 車両価格 (税込) | ボルボ V60 Cross Country T5 AWD: 5,490,000円<br>ボルボ V60 Cross Country T5 AWD Pro: 6,490,000円  |
| デリバリー開始時期 | —   |



| ニューモデル    | レクサス RC F   |
|-----------|---|
| 発表・発売日    | 2019年5月13日 発売   |
| 概要        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 従来型より約20kgの軽量化を実現</li><li>・ レースで培われた空力デバイスや形状を織り込んだデザイン</li><li>・ 新たな高性能バージョン“Performance package”を設定</li></ul> |
| 車両価格 (税込) | レクサス RC F: 10,210,909円<br>レクサス RC F “Carbon Exterior package”: 10,996,364円<br>レクサス RC F “Performance package”: 14,040,000円                              |
| デリバリー開始時期 | —   |



| 一部改良      | 日産 GT-R   |
|-----------|---|
| 発表・発売日    | 2018年4月17日 発表   |
| 概要        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 2020年モデルとして、ターボの高効率化、シフトスケジュールおよびブレーキ特性の変更などを実施</li><li>・ ツートンカラーの「50th Anniversary」を、2020年3月末までの期間限定モデルとして設定</li></ul> |
| 車両価格 (税込) | 日産 GT-R Pure edition: 10,631,520円<br>日産 GT-R Black edition: 12,539,880円<br>日産 GT-R Premium edition: 12,105,720円<br>日産 GT-R 50th Anniversary: 13,192,200円～       |
| デリバリー開始時期 | —   |



| ニューモデル    | メルセデス・ベンツ G 350 d  |
|-----------|--|
| 発表・発売日    | 2019年4月4日 注文受付開始   |
| 概要        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 先代モデルで売れ筋だった、ディーゼルエンジン搭載のエントリーモデルを追加</li><li>・ 3.0L 直列6気筒クリーンディーゼルエンジンは、最高出力286 ps、最大トルク600 Nmを発揮</li><li>・ トランスミッションは先代の7速ATから9速ATに進化</li></ul> |
| 車両価格 (税込) | メルセデス・ベンツ G 350 d: 11,700,000円   |
| デリバリー開始時期 | 2019年7月頃   |



| 一部改良      | メルセデス・ベンツ Eクラス  |
|-----------|---|
| 発表・発売日    | 2019年3月22日 予約受付開始   |
| 概要        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ E 200 アバンギャルド、E 200 4MATIC アバンギャルドのエンジンを変更</li><li>・ 新技術の「BSG」+「48 V電気システム」を採用した1.5L 直4ターボエンジンを搭載</li><li>・ 258psを発揮する2.0L 直4エンジンを搭載したE 300 アバンギャルド スポーツを新規設定</li></ul> |
| 車両価格 (税込) | メルセデス・ベンツ E 200 アバンギャルド: 7,210,000円 (ステーションワゴン: 7,590,000円)<br>メルセデス・ベンツ E 200 4MATIC アバンギャルド: 7,440,000円 (ステーションワゴン: 7,820,000円)<br>メルセデス・ベンツ E 300 アバンギャルド スポーツ: 8,550,000円 (ステーションワゴン: 8,930,000円)           |
| デリバリー開始時期 | 2019年6月以降   |



| ニューモデル    | BMW Z4   |
|-----------|--|
| 発表・発売日    | 2019年3月25日 発売  |
| 概要        | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 2年ぶりの復活。ホイールベースを短縮しながら、ボディサイズを拡大</li><li>・ 50km/h以下では走行中も10秒で開閉可能なソフトトップ</li><li>・ エンジンは2.0L 直列4気筒ターボと、3.0L 直列6気筒ターボの2種類</li></ul> |
| 車両価格 (税込) | BMW Z4 sDrive20i: 5,660,000円<br>BMW Z4 sDrive20i Sport Line: 6,150,000円<br>BMW Z4 sDrive20i M Sport: 6,650,000円<br>BMW Z4 M40i: 8,350,000円                                 |
| デリバリー開始時期 | —  |

## ENVIRONMENT



### クルー本社工場に 英国最大級の太陽光発電設備

ベントレー モーターズはこのほど、クルー本社の工場に英国最大級の太陽光発電設備を設置しました。これにより、クルー工場で自動車製造に使用する電力の全てが、太陽光発電が環境への影響に配慮して発電されたものとなりました。今回設置された太陽光発電パネルは約10,000枚。1378台分の駐車スペース上の計16,426㎡（サッカーグラウンド2面に相当）に設置され、発電量は2.7MWに及びます。

駐車場への太陽光発電パネルの設置により、クルー工場内の太陽光発電による電力量は7.7MWまで高まりました。これは一般家庭1750軒分以上を賄える電力です。2013年に工場の屋根に20,815枚の太陽光発電パネルが設置されましたが、今回の投資でその総数は30,815枚となりました。

この投資について、ベントレー モーターズのピーター・ボッシュ取締役（マニファクチャリング担当）は、「ベントレーの製品や従業員、



インフラに多額の投資を行うことにより、次の100年におけるビジネスという将来を見据えて準備をすることが重要」などとコメント。さらに、「これが将来の代替パワートレイン技術の導入につながろうと、これまで受賞してきた工場の環境への負荷を低減する活動の1つであろうと、持続可能なラグジュアリーモビリティをリードするという私たちの目的を強くすることに変わりはありません」と続けています。



# ラグジュアリー サルーンの頂点 フライングスパーの系譜

ベントレー モーターズは4月10日、3代目フライングスパーのティザー動画と画像を公開しました。その全貌こそ明らかにされていないものの、新しいデザイン言語を用いながらも、ひと目見てベントレーとわかるスタイリングは踏襲されそうです。3代目の登場を見据え、今回はフライングスパーの歴史をあらためて振り返ります。

1958

## S1 コンチネンタル フライングスパー (1958年)

1952年に登場したR-Type コンチネンタルの成功を受け、ベントレーがこれに続くSシリーズの開発に着手したのが1955年でした。H.J.マリナーやパークワード、ジェームズ・ヤング、フーパー、グレーバーといったコーチビルダーが2ドアのグランドツアラーを製造していましたが、「4ドアのコンチネンタル」を製造したのはH.J.マリナーが初めてでした。このモデルは、当時のH.J.マリナーのマネージングダイレクターを務めていたアーサー・タルボット・ジョンストンによって「フライングスパー」と名付けられました。H.J.マリナーの成功を受け、他のコーチビルダーもこぞって4ドアモデルを製造するようになりました。



1959

## S2 コンチネンタル フライングスパー (1959年)

1959年には、S1 コンチネンタル フライングスパーの改良版とも言えるS2 コンチネンタル フライングスパーが登場。主な変更点は、S1まで使用されてきた直列6気筒エンジンから軽量アルミニウム製のV型8気筒エンジンに換装されたことです。出力が大幅にアップしたことで、走行性能も劇的に向上。ラグジュアリー サルーンとして世界中でヒットしたモデルとなりました。このV8エンジンは後にアルナージやブルックランズへ受け継がれ、現在のミュルザンヌにもその改良型エンジンが搭載されています。今なお生き続けるベントレー伝統の装備の1つといえるでしょう。



2005

## コンチネンタル フライングスパー (2005年)

2005年には、コンチネンタル フライングスパーが復活しました。2003年にデビューし、世界的なヒットモデルとなった初代コンチネンタルGTのプラットフォームを用いて開発された4ドアセダンで、W12型ツインターボエンジンを搭載し、最高出力は560psを発揮。最高速度は190mph (約304km/h) に達しました。コンチネンタル フライングスパー登場のタイミングは景気が回復基調にあったタイミングと重なったため、日本でも多くのお客様にご購入いただいたモデルとなりました。派生モデルとして、最高出力610ps、最高速度322km/h、0-100km/h加速4.8秒という圧倒的な性能を誇るハイパフォーマンスバージョンのコンチネンタル フライングスパーSpeedや、ベントレーのスタイリングチームがお客様のご要望どおりに仕上げるコンチネンタル フライングスパー シリーズ51なども登場しました。



2012

## 2代目フライングスパー (2012年)

デビューから7年が経過した2012年、コンチネンタル フライングスパーは現行モデルの2代目へと移行しました。このときに「コンチネンタル」の名を外し、正式名称が「フライングスパー」となったのは記憶に新しいところです。

改良型のW12エンジンを搭載され、トランスミッションもZF製6速ATから同8速ATに変更されました。これに合わせて足回りなども最適化され、ドライバーズカーとしての地位を確かなものになっています。また、最新機器をできるだけ目につきにくいように工夫されているミュルザンヌに対し、フライングスパーではタッチ スクリーン リモート コントロールなどの先進装備を目につく場所に配置するなど、同じラグジュアリーサルーンでも差別化を図っています。

後にフライングスパー V8、フライングスパー V8 SといったV8エンジン搭載モデルもラインアップに加わり、フライングスパー シリーズの旗艦モデルとしてフライングスパー W12 Sも登場。4モデル構成により世界中で多くのお客様に愛されたシリーズとなりました。



2019

## 3代目フライングスパー (2019年中盤に発表予定)

ベントレー モーターズからは、2019年後半に発表予定とされている3代目フライングスパー。これまでのフライングスパーのスタイリングを踏襲しつつ、新しいモチーフが散りばめられる外観となりそうです。

5月16日に発表された第2弾のティザー動画・画像では、インテリアの一部が公開されました。ドアトリムに用いられているのは「3Dダイヤモンド レザートリム」で、クルーで独自に開発されたものです。このレザーパターンを採用するのは、自動車業界では世界初で、新型フライングスパーの標準仕様となる見込みです。





## COLLECTION

# ベントレー コレクションに 新アイテムが登場

ベントレー コレクションに新しいアイテムが加わりました。

※ 商品は本国に在庫がない場合もあります。ご発注の際は事前に在庫状況や納期などをご確認ください。特にMurano グラス花瓶は、生産に時間を要しますのでご注意ください。



### Flying 'B' ペーパーウェイト

希望小売価格：¥9,100  
パーツナンバー：BL1958



### Flying 'B' レターオープナー

希望小売価格：¥7,300  
パーツナンバー：BL1959



### Flying 'B' ボトルストッパー

希望小売価格：¥7,900  
パーツナンバー：BL1960

次に、伝統的かつ高度な技術の吹きガラス製法で製造されたヴェネツィアン グラスの「Murano グラス 花瓶」です。表面のマトリックスグリルを模した柄は、全て手作業でカットが施されたものです。



### Murano グラス 花瓶 WIDE

希望小売価格：¥316,000  
パーツナンバー：BL2000



### Murano グラス 花瓶 TALL

希望小売価格：¥295,000  
パーツナンバー：BL2001



### Murano グラス 花瓶 SMALL

希望小売価格：¥274,000  
パーツナンバー：BL2002

## HERITAGE



# ベントレー伝統のモチーフ 「丸型4灯ヘッドランプ」

現在のベントレーのモデルには、随所にW.O. ベントレー時代から受け継がれているモチーフがあります。ベントレーの伝統的な装備について解説します。今回は丸型4灯ヘッドランプです。

### 丸型ヘッドランプへのこだわり

「ひと目見てベントレーとわかる」という外観上の特徴の1つが、丸型ヘッドランプです。ベントレーが丸型ヘッドランプにこだわるのは、ル・マンでの5回の優勝をはじめとするモータースポーツとのつながりに深く関係しているからです。

1920～1930年代のレースカーは、ヘッドランプをラジエターグリ

ルの左右に配置していました。しかし当時のライトバルブでは光量が足りず、現在の基準からすると巨大ともいえる丸型のリフレクターで補っていたのです。流行に左右されず、丸型ヘッドランプとその配置をキーデザインとして現代にまで受け継いできた背景には、ル・マン優勝という誇りがあるからなのです。

### モデルごとに微妙に異なるヘッドランプ

ベントレーのヘッドランプは「丸型4灯」が基本ですが、モデルによってデザインは微妙に異なります。例えばミュルザンヌは内側が大きく外側が小さい丸型ヘッドランプを、下のベースラインに合わせて水平に並べています。フライングスパークは内側と外側の大きさがミュルザンヌと逆で、ペンティガは外側がポジションランプのLEDリングのみ。また、コンチネンタルGTはガラスのクリスタルカット技術からインスピレーションを得たデザインが採用されるなど、時代やモデルの性格によって変化が与えられています。





# 燃費向上技術いろいろ

環境への対策という意味もあって、現在、世界のあちこちで燃費規制が強化されています。そうした規制に対応するために、様々な燃費向上のための技術が採用されています。今回は、ベントレーも採用している燃費向上技術の内容を紹介します。



## 気筒休止システム

走行中に負荷の小さなときに、エンジンの半分の気筒を休止させるのが「気筒休止システム」です。エンジンの停止／再始動の制御は、非常に短時間のうちに行われるため、ドライバーは気筒休止していることにほぼ気が付くことはありません。排気量の大きなエンジンに効果が大きいのでV12やV8エンジンに採用されるケースが多くなっています。



4気筒エンジンの気筒休止システム。緑のバルブが閉まって、半分の気筒が休止する。

## LEDライティング

LEDのライティングシステムは効率性が高いため、ヘッドライトやストップランプなどにLEDを採用することも燃費向上につながっています。また、複数のLEDを上手に制御することで、夜間の視界をより広範囲に確保することも可能となります。高機能なLEDライティングシステムの採用は、燃費性能を高めるだけでなく安全性も高めているのです。



高効率のLEDを灯火類に採用することで燃費を高めるだけでなく安全性も高まる。

## スタートストップテクノロジー

停車中にエンジンを停止させるのが「スタートストップテクノロジー」です。「アイドリングストップ機能」「エンジンスターートストップ機能」などとも呼ばれます。ベントレーの技術の場合、車両が静止しているときだけでなく、停止しそうな速度のときもエンジンを止めることが可能になっており、より燃費性能を高めるようなものとなっています。



停車時のアイドリングをストップだけでなく、惰性走行中のエンジン停止も可能とした。

## 多段化オートマチック

オートマチックトランスミッションの多段化も燃費向上に効果絶大です。6速から8速などギアの段数を増やすことで、より燃費効率の良い領域でエンジンを使うことが可能になるからです。もちろん走行性能という面でもトランスミッションの多段化はプラスに働きます。エンジンのパワーの出る領域をキープするにもギアの段数は多い方が有利となります。



トランスミッションのギアの多段化は、世界的なトレンドとなっている。

## 電動パワーアシストステアリング

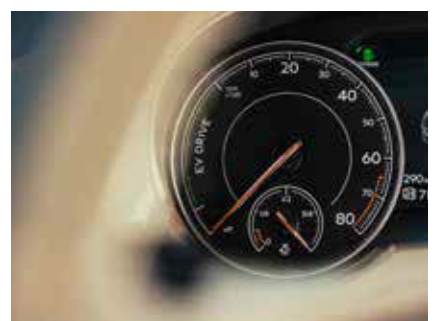
パワーステアリングを油圧式から電動とすることで、油圧ポンプの分だけ燃費性能を高めることができます。ベントレーで採用されている電動パワーアシストステアリング（EPAS）は燃費性能を高めるだけでなく、可変ラックレシオという特徴によって、低速時と高速時にそれぞれ最適なレシオを実現。走行性能を高めることにも貢献しています。



電動化されたパワーステアリングによって燃費と走行性能の両立に貢献している。

## 電動化技術

エンジンにモーターを組み合わせる電動化技術も燃費向上に大きな効果を発揮します。比較的小さなモーターを使うマイルドハイブリッド（48Vシステムを含みます）から、ハイブリッド、そしてプラグイン・ハイブリッドと、電動化技術にも、さまざまな種類が存在します。そして電動化技術の終点と言えるのが電気自動車（EV）という存在になります。



電動化技術により、減速時のエネルギー回収などが可能になり、燃費性能が高まる。